



スノーシューハイキング

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・積雪期にしかできない活動をとおして、雪国の自然に親しむことができます。
- ・動物の足跡や樹木の冬芽等を観察することにより、生命の営みが冬でも続いていることに気づくことができます。

【教科への対応】 小学校：体育、理科など 中学校：保健体育、理科など

【関連する活動プログラム】 自然ふれあいハイク（四季を通じて実施できる）

【組合せ可能な活動プログラム】 チューブそり遊びなど

2 活動の概要

スノーシューをはいて白銀のフィールドを歩き、アニマルトラッキングや冬芽の観察をする活動です。冬でもたくましく活動している動物たちや、寒さに耐えじっと春を待つ植物たちを観察します。

(1) 人数 80人以内

※一度に実施できるのは40人程度のため、
他のプログラムと組み合わせて実施することが望ましい。

(2) 対象 小学校3年生～中学生・高校生

(3) 期間 1月上旬～3月上旬

(4) 時間 1～1.5時間（説明20分+活動40～70分）

(5) 場所 自然の家活動エリア

(6) 経費 無料

(7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明
（直接または間接指導）を行う。



<活動の様子>

3 準備物

団 体	救急薬品
個 人	帽子、手袋、長靴、冬の野外活動に適した服装
自然の家	ビブス、スノーシュー、無線機（8台）

4 引率者の役割分担

役割名	内 容
代表責任者	1名。責任者として全体の総括、指揮、連絡にあたる。
活動支援者	数名。隊列の前後や途中に付き、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。

◎自然の家で見られる冬芽・足跡の例



<オオカメノキ>



<ホオノキ>



<オニグルミ>



<オオバクロモジ>



<ノウサギ>



<ニホンリス>

5 活動の流れ

	内 容
説 明 準 備	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理、服装（防寒着・帽子・手袋）、スノーシューについて説明 ビブス、スノーシューの貸出
活 動	<ul style="list-style-type: none"> 動物の足跡、食跡、排泄物等を手がかりに、雪の中での行動を想像する。 樹木の冬芽や葉痕を観察し、冬でも生命の営みが続いていることに気づく。 人員の確認をする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえり 借用物品の返却（無線機は事務室へ返却）

6 実施上の留意点

- 冬の屋外での活動なので、事前・事後の健康管理に気をつける。
- コース上にトイレはないので、出発前に必ずトイレを済ませるようにする。
- 長靴のサイズが小さい場合は、スノーシューが外れやすいので装着状況を確認する。また、コースの圧雪状況によっては、スノーシュー無しで観察活動を楽しむことも十分可能である。
- 直前の踏査が必要であるため活動時間の設定は、踏査時間を加味した余裕のあるものとする。
- コースについては事前に職員と相談の上、決めることができる。
- 春～秋は「自然ふれあいハイク」として実施することで同等のねらいが達成可能である。

7 安全に実施するためのポイント

- 荒天時は中止する。
- 実施当日に、コースの安全確認を行う。

8 資料のリンク

※見所マップの詳しい資料は、当所ホームページのトップページ「活動プログラム一覧」バナーから入り、「野外活動プログラム」「自然ふれあいハイク」の項からリンクがある。

9 活動エリア

